

2023年8月9日

各位

会社名 GMO ペパボ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 佐藤 健太郎
 (コード番号 3633 東証プライム)
 問い合わせ先 常務取締役 五十島 啓人
 T E L 03-5456-3021

通期連結業績予想および配当予想の修正ならびに 役員報酬の一部自主返上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2023年2月6日に公表しました2023年12月期通期連結業績予想および配当予想を下記の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

また、役員報酬の一部自主返上につきまして、申し出がありましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 2023年12月期通期連結業績予想の修正（2023年1月1日～2023年12月31日）

(1) 修正の内容

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 11,064	百万円 857	百万円 830	百万円 573	円 銭 108.64
今回修正予想 (B)	10,894	△642	△576	△867	△164.43
増減額 (B-A)	△170	△1,500	△1,407	△1,441	-
増減率 (%)	△1.5%	-	-	-	-
(参考) 前期実績 (2022年12月期)	10,531	732	767	510	96.37

(2) 修正の理由

金融支援事業の「FREEMANCE」において第1四半期連結会計期間で貸倒関連費用を1.8億円計上したことを受けて、管理体制を見直し5月以降は全面的に提携企業取引の高額な請求書買取を停止しました。第2四半期連結会計期間において、運送業・建設業を中心に複数の大口取引先の財政状態が悪化し、滞留債権金額が増加したため、滞留債権に対する貸倒引当金等の貸倒関連費用を10.9億円計上したことから、第2四半期連結累計期間において8.2億円の営業損失を計上することとなりました。

加えて、第3四半期連結会計期間以降も、高額な提携企業取引は行わないことから、期初予

想と比較して請求書買取額の減少が見込まれるため、金融支援事業の売上高および営業利益の減少が見込まれます。滞留債権の回収や本社費等のコスト削減に取り組んでまいりますが、金融支援事業による業績への影響が大きく、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益が2023年2月6日に公表しました連結業績予想を大きく下回る見込みとなりました。そのため、上記のとおり2023年12月期通期連結業績予想を修正いたします。

2. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回発表予想 (2023年2月6日公表)	0円00銭	0円00銭	0円00銭	55円00銭	55円00銭
今回修正予想			0円00銭	0円00銭	0円00銭
当期実績	0円00銭	0円00銭			
前期実績 (2022年12月期)	0円00銭	0円00銭	0円00銭	50円00銭	50円00銭

(2) 修正の理由

当社では、株主への適正な利益還元が重要な経営課題であることを認識しております。そのため、事業の成長に基づく中長期的な株式価値向上とともに、業績に連動した配当は配当性向50%以上を基本方針に掲げております。しかしながら、上記「1. 2023年12月期通期連結業績予想の修正」に記載のとおり、親会社株主に帰属する当期純利益は損失計上する見込みであることから、誠に遺憾ながら当期の期末配当予想を無配とさせていただきます。

3. 役員報酬の返上について

本業績予想の修正内容を真摯に受け止め、経営責任を明確にするため、下記のとおり、常勤取締役より役員報酬の一部を自主返上する申し出がありましたので併せてお知らせいたします。

(1) 報酬返上の内容（監査等委員1名を含む）

代表取締役社長	月額報酬の50%を返上
取締役副社長	月額報酬の40%を返上
管理部門管掌取締役	月額報酬の30%を返上
取締役	月額報酬の15%を返上

(2) 報酬返上の期間

2023年12月期における3ヶ月分を返上

(注) 本資料に記載する業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により、上記予想数値と異なる可能性があります。

以上